

「東京おひさまベリー」のプランター栽培

〔 栽培上のポイント 〕

- 肥料のやり過ぎに注意しましょう。肥料をやり過ぎると、葉が茂り過ぎて、果実が葉の中に隠れてしまい、なかで蒸れて病気になり腐ってしまいます。
- 乾きすぎにも注意しましょう。イチゴは水で作ると言われるくらいの作物です。水やりも大切で、プランター内の土の表面が乾いてきたらたっぷり灌水します。
- 同じ苗の使用は3年までとします。長年作っていると、ウイルス病に感染し、収量が減ってきます。3年栽培したら、新しい苗を購入しましょう。

〔 作型と品種 〕

- 露地栽培では、一般には秋植え栽培です。春植え栽培も可能ですが、春植え栽培の収量は、秋植え栽培の半分程度となります。
- 「東京おひさまベリー」の他に露地栽培用品種には「宝交早生」があります。市販されている「とちおとめ、紅ほっぺ」などのハウス栽培用の品種を露地で栽培すると、葉が大きくなりすぎ、着果数が少なくなります。

〔 栽培カレンダー 〕

		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋植え						■					○		◇
春植え			○		■								

○ 定植 ◇ 追肥 ■ 収穫期間

〔 栽培の実際 〕

○ 苗の確保

定植用苗を購入します。秋植え栽培では10月中旬頃、春植え栽培では3月上旬に定植します。苗は通販やネット販売されています。(タキイ種苗通販、苗木部 by 花ひろばなど)



○ 定植

市販の野菜用培養土を用います。一度栽培した用土の再利用の場合は、プランター当たり2～3ℓの堆肥をさらに混和し、化成肥料を10～20g程度与えます。

定植は、葉が付いている基の部分（クラウンと言います）が、半分程度、土壌より出ているように浅く植えつけます。クラウンが全部埋まってしまうと、苗が枯れるか、枯れなくても株の生育がわるくなります。



クラウンを半分程度埋めます。**(深植え厳禁)**



長さ58cmのプランターでは、苗は3株植えられます。

○古葉の整理

古葉をずっと付けておくと、株の生育が遅れます。定植後2～3週間頃、冬期～春先にかけて、元気のない葉（垂れて地面に付く）や枯れた葉を除去します。クラウン部分を抑えて、株が抜けないようにかき取るように行います。

○追肥

秋植えの場合、12月下旬頃に1回だけ、プランター当たり15～20gの化成肥料を播きます。肥料が多すぎると春に病気が発生しやすくなるので注意しましょう。

○収穫

収穫はじめ（連休頃）は午前中の収穫でよいですが、最盛期（5月中～下旬）には朝夕の2回の収穫が必要となります。



○病虫害防除

土壌病害の萎黄病が発生しやすくなるので、連作は行いません。害虫では、ハダニ、スリップス、アブラムシなどが発生しますので、たまに雨に当てましょう。

○次年度の苗の確保

収穫が終わったら、ランナーと言って子供の苗が出てきます。これらを別の鉢か、プランターに取って、翌年の苗とします。



〈注意〉 この品種は種苗登録されています。苗の自家増殖は可能ですが、増殖した苗は有償、無償を問わず他人に譲渡することは禁止されています。

